

2023年度

「横浜市市民協働推進センターの取り組み」



横浜市市民協働推進センター長 伊吾田 善行

横浜市市民協働推進センターとは

- 設置：2020年4月
- 場所：横浜市市庁舎1階（2020年6月より）
- 運営：認定NPO法人市民セクターよこはま・横浜市市民局

私たち、横浜市市民協働推進センターは、横浜をより良くしたい市民の方々や、行政が重なり合う空間としてオープンしました。地域団体・NPO・企業・大学・行政など、組織の垣根を超えて、取り組みたい課題や、気になるテーマで繋がり、協働して、未来をつくっていくための空間です。地域の課題を解決するプロジェクトや、主体的な実践を一つ一つ積み重ねていく皆さんを応援し、コーディネートや伴走的な関わりを行うことで、横浜がもっと豊かに、暮らしやすいまちになることを目指します。



6つの事業

総合相談 事業

- ・総合相談
- ・市民協働相談会など

情報蓄積 ・活用・ 発信事業

- ・ホームページ
- ・メルマガ、SNS
- ・情報誌など

交流促進 事業

- ・ミズベサロン
- ・ヨコラボ2024など

人材育成 事業

- ・スタートアップ
プログラム など

市民活動 支援事業

- ・各種セミナー
- ・協働ラボを活用し
たPR支援
など

各区の 市民活動支援 センター 支援事業

- ・ネットワーク会議
- ・個別サポート

1. 「相談・協働する」 総合相談事業

1-1. 協働のための総合相談窓口

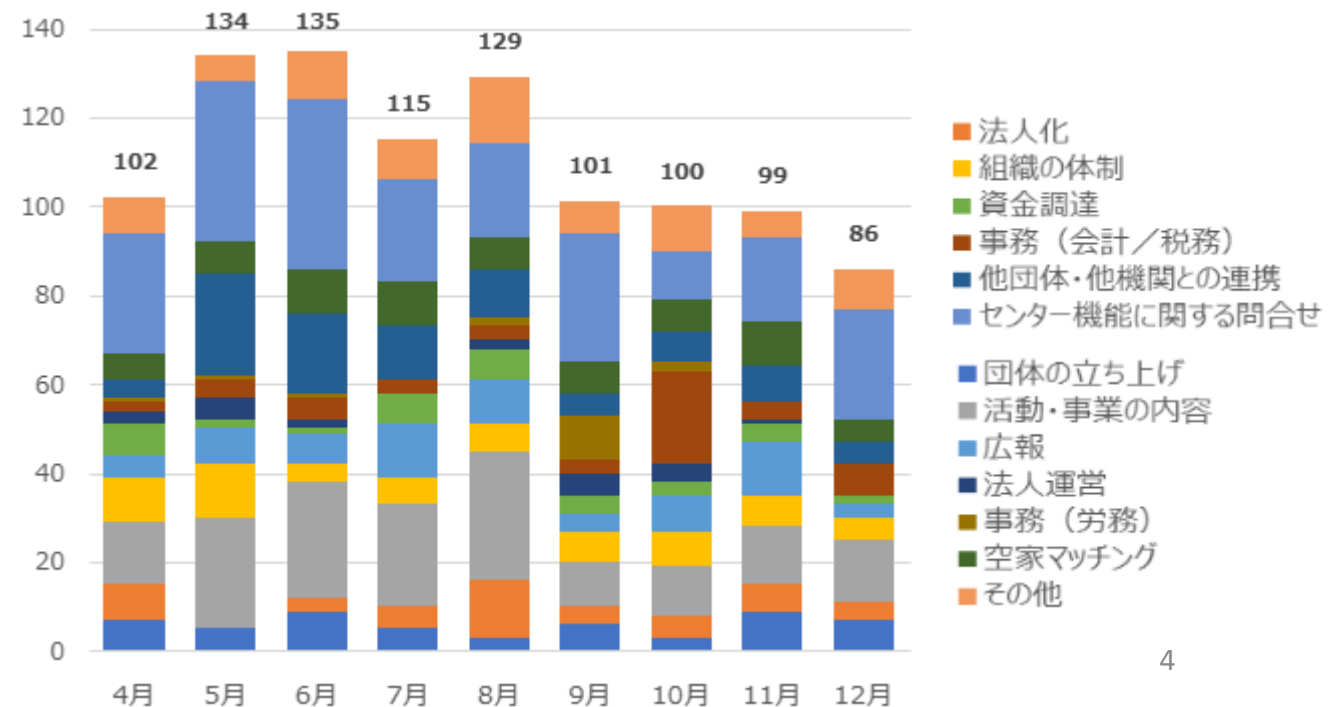
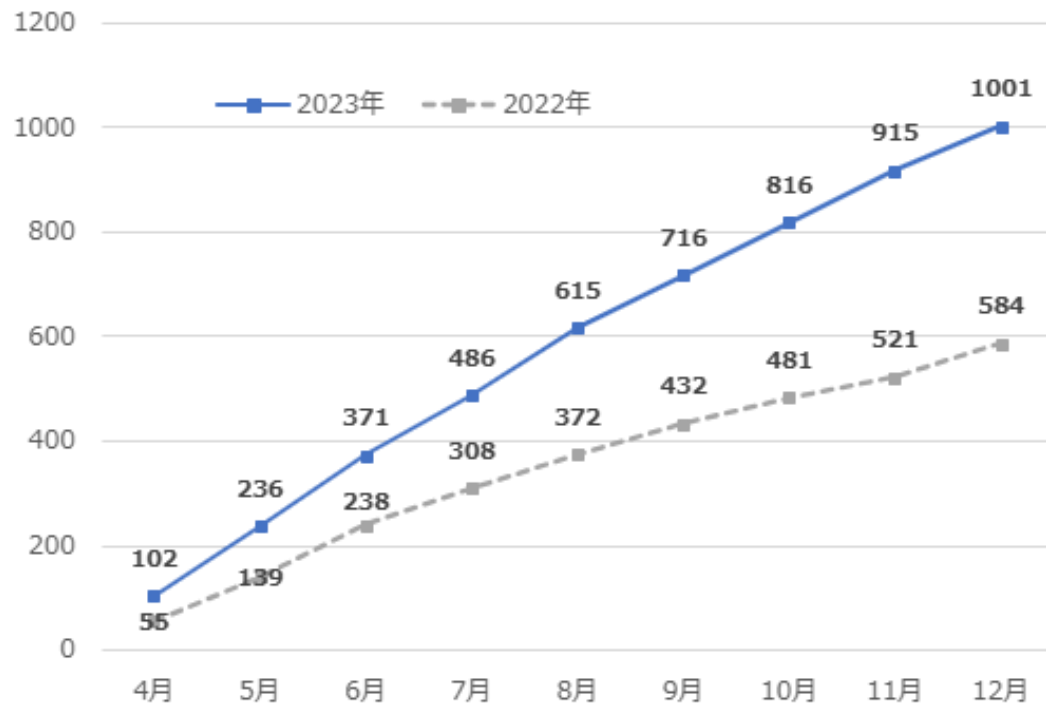
協働について相談・提案を受け付けるワンストップ窓口。

主な相談：協働、組織運営、NPO設立など、**年間約1000件**

(2023年12月現在)



総合相談
事業



1. 「相談・協働する」 総合相談事業

1-2. 市民協働相談会（ピックアップ①）

協働コーディネーターと参加者がつくり上げる社会課題解決への気づきの場。
また、つながりづくりや交流の場でもある。



- ①子どもの居場所：地域でつくる子どもたちの居場所
- ②地域コミュニティ：今の時代の地域コミュニティ
- ③防災：私たちが『防災』から学ぶこと
- ④地域の緑：地域の“緑”を育む活動のこれまでとこれから

計90名

1-3. 士業相談会

市民協働を推進するために、NPOが組織運営に必要な税理士・社労士との
相談を相談会として開催することで、組織内の課題解決に対応する。

テーマ：会計：7/11、労務：9/14、会計：12/11 計65名、 労務：3/14

講師（会計）：吉澤 寿朗税理士（NPO法人税理士による公益活動サポートセンター）

講師（労務）：飯田 剛史社会保険労務士（社会保険労務士法人ことのは代表）

令和5年度
よこはまNPO 会計・労務相談会

NPO法人の会計・労務についてのセミナーや、専門家に相談したり、同じ立場の仲間と情報交換する場です。専門家による会計や労務に関する基礎のお話を聞いた後、公開相談会や会場内交流会を予定しています。ぜひご参加ください。

会計編
「会計のキホン～組織の基盤としての会計～」

7月11日(火) 13:30～16:30 ※同日とも同じ内容です。どちらかの日程をお申込みください。
12月11日(月) 13:30～16:30
対象：NPO法人等の会計担当

講師：吉澤 寿朗税理士
NPO法人は会計の公益義務があります。専門家に予算から決算までの会計処理の流れや業務作成のポイント等を「会計担当者」向けにお話いたします。

労務編
①「労務のキホン～理事・管理者向け～」
9月14日(木) 13:30～16:30 対象：NPO法人等の理事・管理者
②「労務のキホン～労務担当者向け～」
3月14日(木) 13:30～16:30 対象：NPO法人等の労務担当者

NPO法人が直面する課題の一つとして、労務管理があります。専門家に「労務の基礎を「理事・管理者」と「労務担当者」向けに、公開相談会を開催いたします。開催日をお話させていただきます。

講師：飯田 剛史社会保険労務士
NPO法人、NPO企業、上場企業など、業種・業種・企業規模を問わず、労務管理に関するお問い合わせを随時受け付けてお話をさせていただきます。

場所：横浜市庁舎1階 スペースA・B(アトリウム側)
定員：30名(申込多数の場合は抽選)
参加費：無料

お申込み方法：アクセスページにてお申し込みください。

主催：横浜市民協働推進センター
(認定NPO法人市民協働センターよこはま・横浜市民協働推進センター)



2. 「知る」 情報活用事業



2-1. 情報発信

センターの機能や役割といった基本的な情報の発信、協働事業など協働事例紹介、センターのイベント情報を、ホームページや**メルマガ（登録 4,374名）**、**SNS（Facebook：799フォロワー、X：173フォロワー）**、印刷物といった広報媒体の活用や、公開型イベントの開催などを通じて広く周知し、市民等に提供。

2-2. 情報誌発行

センターのことをより知ってもらうために、その役割をはじめ、事業内容、今年度の取組のピックアップ、また、市内の協働の事例紹介等を発信。

現在編集中、3月末発行予定

3. 「学ぶ」 人材育成事業



3-1. 市民協働スタートアッププログラム

①意欲ある市民対象：市民活動に関わりたい意欲的な若い世代（企業や行政職員を含む）を念頭においた人材育成プログラム。

テーマ：市民協働による社会課題解決に向けた連続講座&ワークショップ（4回連続） **28名**

3-2. コラボレーション@スペース

協働の創発への示唆となる他分野や周辺領域のゲストトーク。
会場では参加者同士の意見交換や交流も促進。

テーマ：①ChatGPTを活用した地域の協働

②横浜の食がつなぐ協働の未来 **計65名**



4. 「つながる・協働する」 交流促進事業



4-1. ミズベサロン (ピックアップ②)

協働に意識のある市民が顔を合わせて自分の考えを共有し参加者同士がゆるくつながる場である。対象は社会課題の解決に関わりたいという考えを持つ初心者からベテランまで各回のテーマにより設定。

- ①起立性調節障害の子どもたちの居場所づくり (テーマ提供：中学2年生)
- ②精神障害の方が考える「働き方、生き方」とは (テーマ提供：30代)
- ③十人十色 ゆるりと「性教育」のおはなし会 (テーマ提供：大学生)

計49名

4-2. 市民協働HUB事業

「様々な主体がつながる」ためのハブ機能として、センターが市内外の様々なステークホルダーと連携するプラットフォームを整備。2023年度は、大学と企業との連携を開始。

- ①大学編：3/1「大学・都市パートナーシップ協議会事務担当者会議」にてセンターPR

30校

- ②企業編：3/25「公益事業者交流会」
(SDGs デザインセンター、YOXOBOX、共創コンソーシアム、IDEC、男女共同参画センター、公益財団法人、助成事業実施企業ほか)

10組織予定

4-3. ヨコラボ (ピックアップ③)

協働・共創の一体的取り組みの実証実験として連携イベント開催。



5. 「学ぶ」 市民活動支援事業

5-1. 市民活動（NPO）入門セミナー

テーマ：「オンライン市民活動（NPO）入門セミナー」 **計41名**



5-2. 市民活動基礎セミナー

既存の市民活動団体や市民協働を実践しているNPOなどを対象に、人材育成としてスキルアッププログラムを実施。

テーマ：①「経営」②「会計」③「PR戦略」 **計39名**



5-3. 市民活動のPR支援（ワクワク子どもday&北仲フェスとのコラボなど）

イベントを通じて、市内の市民活動団体が、活動する分野の垣根を越えて、相互に連携・協働しながらその活動を広く社会に発信。

テーマ：8月「市民活動アピールdays」

10月「ワークショップ&Pepperくんの環境・防災&市民活動チラシコンテスト」

12月「子どもあんぜんフェスタ2023 ～わんわんパトロール紹介～」

計2727名

6. 「連携する」 各区の市民活動支援センター支援事業

6-1. ネットワーク会議

各区支援センターの機能強化、情報共有・職員同士の交流を目的に、市民局と協働で実施。

- ①「市民活動支援センターの役割等について」 参加者：34名
- ②「施設間連携でつながり・つなぐ・地域の輪」 ゲスト：まち×学生プロジェクト 原島隆行氏 参加者：34名
- ③「NPO法人との連携等について」 ゲスト：森ノオト 北原まどか氏 参加者：23名

6-2. ヒアリングと日常サポート

運営状況や実施事業などをヒアリングし、協働事業に関する情報・ノウハウ共有など、各区の支援センターの実情に合わせた伴走支援。

- ①市民局との各区ヒアリングの実施
- ②金沢区（協働企画「NPO入門セミナー」 開催：参加：25名）
- ③緑区（協働企画「OPENみどりーむ 地域×NPO×自治会」 開催：参加：25名）等

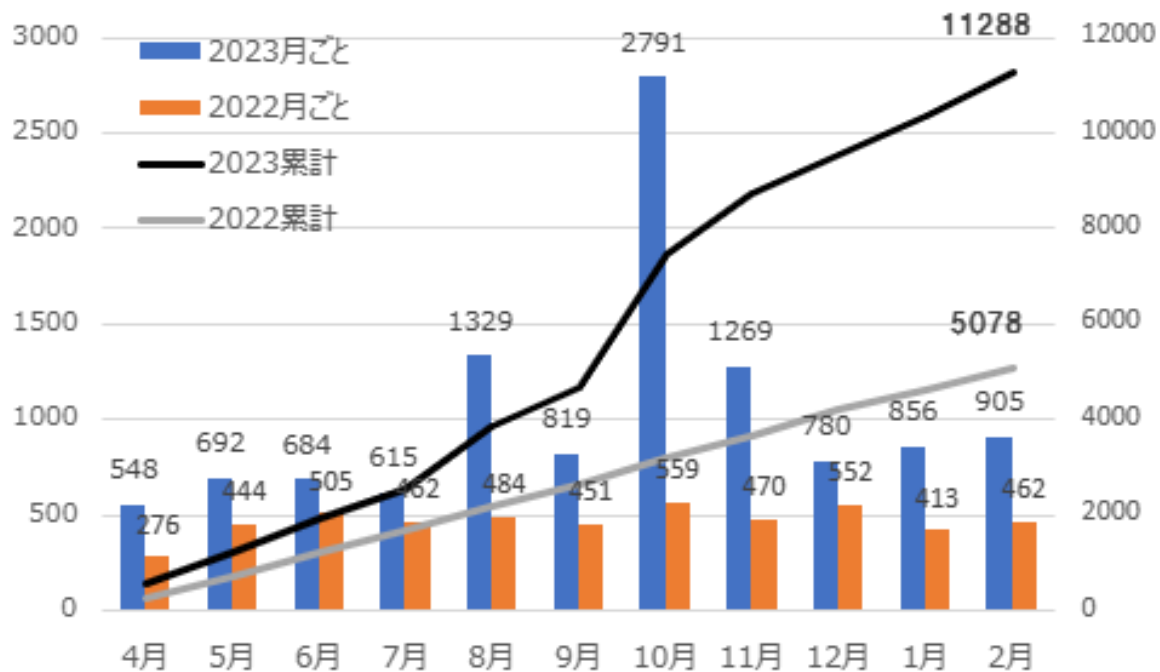
「スペースを活用する」

協働ラボ・スペースAB

協働ラボ・スペースABの活用実績

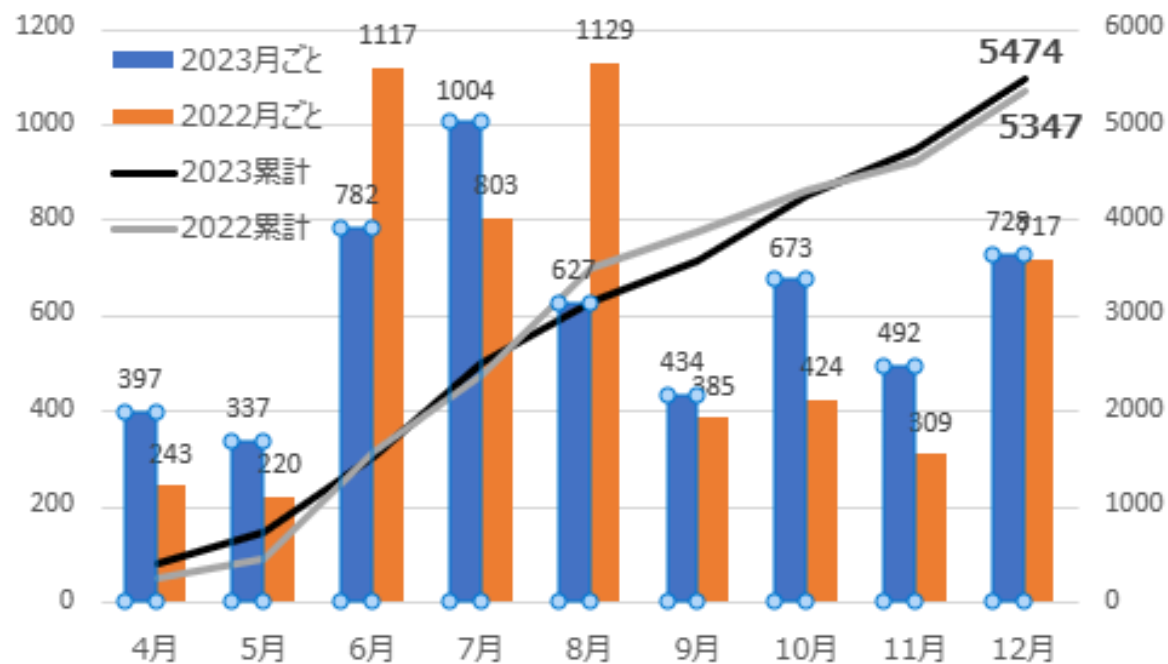
協働ラボ

(2022年度5,078名→2024年2月時点11,288名)



スペースAB

(2022年度5,347名→2023年12月時点5,474名)



ピックアップ

ピックアップ① 総合相談事業

総合相談
事業

市民協働相談会（協働を生み出す場）参加：90名

協働コーディネーターと参加者がつくり上げる社会課題解決への気づきの場。
また、つながりづくりや交流の場でもある。

①子どもの居場所：地域でつくる子どもたちの居場所

ゲスト：かけはし代表 廣瀬貴樹氏 Co：鈴木智香子氏、大木節裕氏

②地域コミュニティ：今の時代の地域コミュニティ

ゲスト：沖縄大学名誉教授 加藤彰彦氏 Co：鈴木智香子氏

③防災：私たちが『防災』から学ぶこと

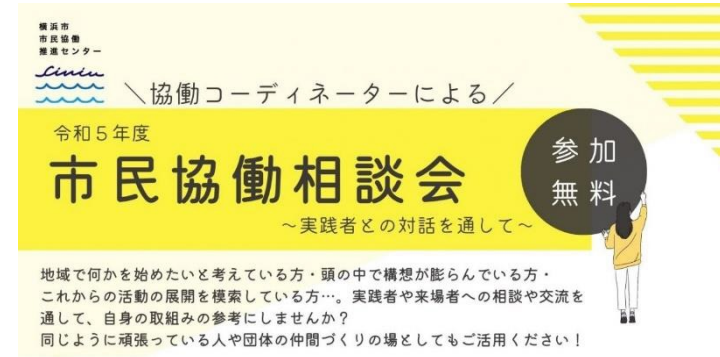
ゲスト：株かまいしDMC 小松野麻実氏、市民局長・Sonae-bu 渋谷昭子氏 Co：伊藤朋子氏

④地域の緑：地域の“緑”を育む活動のこれまでとこれから

ゲスト：よこはま里山研究所 松村正治氏、チームままmaioka 中川隆義氏 Co：吉武美保子氏

★ポイント：如何に協働が生まれやすい環境をつくるか。

共通の課題が多いため、課題を共有し、コーディネーターと共に紐解き、深め、今後の活動に活かす。また、横のつながりをつくる。





ピックアップ② 交流促進事業

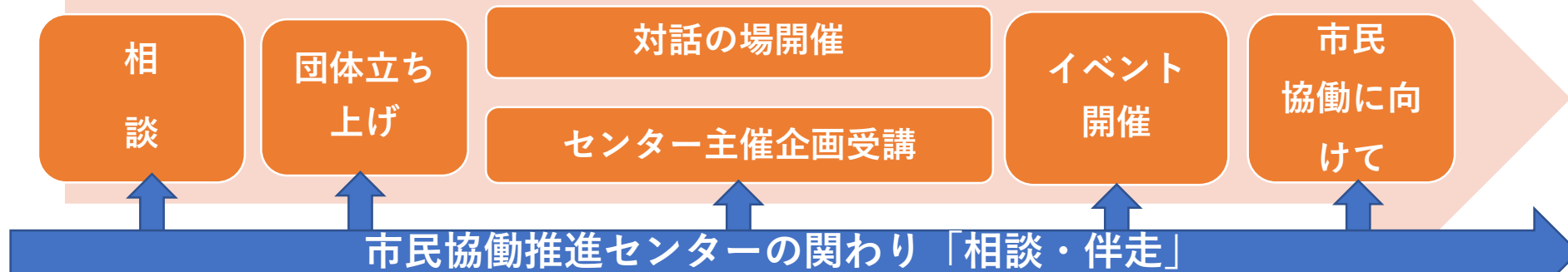
ミスベサロン（協働が生まれやすい環境づくり）参加：50名

起立性調節障害の子どもたちの居場所づくり

センターではこれまで、医療的ケア児や障がい児のきょうだい児など、当事者に関わる支援をしてきました。同様の症状を抱える当事者同士の活動は、経験と感情の共有を通じて支え合うことで、症状の緩和や治療に繋がります。

また、症状を広く周知し、周囲の理解と早期対応を促すことは、悪化を防ぐ重要な活動です。病児は、社会的な発言力が弱いこともあり、課題として社会全体の関心を喚起する支援をしています。

★ポイント：市民協働を実現するために、まず様々な主体がつながる環境づくりから始めています。本サロンでは水面下にある課題を引き上げることを目的にしています。



ピックアップ③ 協働＋共創（交流促進×人材育成事業）

総合相談
事業

ヨコラボ2023 (YOKOHAMA Co-lab.2023)

2023年10月30日（月）@アトリウム テーマ：市民協働の経験から見てきた協働・共創の未来

第一部：事例発表

事例発表①小学生を対象にした環境学習・防災教育に取り組む「港北水と緑の学校事業」

事例発表②障がい児の兄弟姉妹の預かり保育に取り組む「きょうだい児の地域での支援」

第二部：パネルディスカッション

- ・NPO法人 鶴見川流域ネットワーク事務局調査担当 阿部裕治さん＋協働先：横浜市港北区区制推進課 笠原係長
- ・「ちよこっと子育てレスキュー隊」から、NPO法人 のはらネットワーク理事長 山田由美子さん、保育士 燕昇司知里さん、NPO法人 りんぐりんく理事長 木村博子さん＋協働先：都筑区こども家庭支援課高橋係長、緑区総務課 武智係長
- ・モデレーター：NPO法人 森ノオト」理事長 北原まどかさん
- ・市民協働推進センター長 伊吾田

- ①協働（出会い）のきっかけ、関係の作り方
- ②信頼関係を築けた瞬間
- ③現在の役割分担
- ④協働だからこそ効果
- ⑤今後の話／「協働・共創」の可能性

★ポイント

市民の立場からと、行政の立場から協働を紐解くことができた
詳しくはHPをご覧ください

「協働って、
楽しい！」





成果と課題（展望）

令和5年度は、4つのテーマとして

「①市民協働に関わる市民の裾野を広げる」「②組織を超えて活躍できる人材が育つ集いの場を創る」
「③市民のチャレンジを促し伴走する」「④当センターが市民協働プラットフォームになる」
をもとに、全ての事業を連動させ効果的な運営を行った。

成果

- ①②センター企画に、**3,274名**が参加、
センターが運営している協働ラボを**11,288名**（24年2月）、スペースABを**5,474名**（23年12月）が活用
- ③「総合相談」**1,000件以上**
- ④各区市民活動支援センター、SDGsデザインセンター、公益事業者、共創コンソーシアム、大学、男女共同参画センター、市民団体ネットワークなどとの連携強化

課題（展望）

- ・ 市民協働提案事業に提案ができるような仕組みづくり
- ・ 市民団体、中間支援組織の世代交代
- ・ コロナで切れているネットワークの再生及び強化

2024年度に向けて

6つの事業 + 1

総合相談 事業

- ・総合相談
- ・市民協働相談会など

情報蓄積 ・活用・ 発信事業

- ・ホームページ
- ・メルマガ、SNS
- ・情報誌など

交流促進 事業

- ・ミズベサロン
- ・ヨコラボ2024など

人材育成 事業

- ・スタートアップ
プログラム など

市民活動 支援事業

- ・各種セミナー
- ・協働ラボを活用し
たPR支援
など

各区の 市民活動支援 センター 支援事業

- ・ネットワーク会議
- ・個別サポート
- ・

協働・共創の 一体的取組

- ・ヨコラボ2024
- ・ダイアログ（仮）
など

協働・共創の一体的取組の推進

社会課題や地域課題に取り組む民間主体のすそ野の拡大、新たな、また効果的な課題解決の創発など、相乗効果の発揮を目指し、一体的取組を本格実施していきます

- 発信と交流の場「ヨコラボ2024」の実施
- 市民活動団体と企業、行政の対話の場「イノベーション・ダイアログ」
- センター実施事業への企業等の参加促進 ほか

各区市民活動支援センターとの連携・支援の強化

引き続き、中間支援組織としての機能強化に向けた支援を行うとともに、R6年度は自治会・町内会支援につながるような、コーディネートや取組が実施できるよう、サポートしていきます

- NPO法人や企業とのネットワーク拡充と各区センターへの共有・活用支援
- 自治会町内会と市民活動団体の連携した好事例の収集と各区センターへの共有

2024年度 重点取組

市民活動支援の強化、ネットワーク化に向けた協働スペースの活用

社会課題の解決に向けた多様な主体の交流・ネットワーク構築の場、発信の場として、協働スペース（協働ラボ）の積極的な活用を図ります。また、利用実態に合わせ6月から、平日夜間（18～20時）を予約利用のみとし（予約のない日は18時に閉館）、メリハリのある運営を進めます。

- 市民活動団体の広報支援・活動周知につながるイベントの開催
- センター主催の各種講座やプログラムの実施
- 市民活動団体によるイベントの開催の推進 ほか

中間支援における人材育成及びセンターの専門性向上

さらなる協働の推進、市民活動支援を目指し、他都市の先進的な取組を視察・分析し、センター内はもちろん、市内の中間支援に携わる人材育成を図ります。また、センターの専門性のさらなる向上を目指し、専門機関による外部評価を実施します。

- 他都市の先進的な施設・機関の視察・分析及び、それを活用した市内の中間支援関係者の人材育成に向けた講座やイベントの開催 ほか

ご清聴ありがとうございました。

横浜市
市民協働
推進センター

Linu



<開館時間>

平日： 9:00-20:00

土日祝： 9:00-17:00

協働の未来をつくらう。
横浜市市民協働推進センター

横浜市市民協働推進センター長 伊吾田 善行



市民協働とは

信頼関係をもとに、

共通の目的である**社会・地域課題の解決**に向けて、

様々なセクターがお互いの強みを出し合い、

役割分担を明確にし、

時に**弱みも補完**し合う中で、

協力し合って協働を進めるものだと思っています。

引き続き協働による社会課題解決を推進します！